

学びが詰まった思い出のページに・・・

～修学旅行第2日目～

修学旅行の宿泊地は、島原市にある南風楼です。部屋割りは、男女とも立石小学校の6年生と同部屋です。見学先では学校毎で行動していたため、他校の6年生とふれ合う機会がありませんでしたが、仲良くなるチャンスです。入室後しばらくして私が子どもたちの部屋を覗くと、会話が弾んでいます。すっかり打ち解け、まるでこれまでずっと一緒に過ごしてきたかのようでした。

2日目の6月3日、朝8時15分に宿泊地を出発し、雲仙岳災害記念館と土石流被災家屋保存公園の見学です。33年前のこの日、雲仙普賢岳で火砕流が発生し、多くの方が犠牲になりました。記念館には、熱で焼けた取材用のカメラの機材などが展示されており、火砕流のすさまじさを目の当たりにした子どもたちは、災害の脅威を改めて身近に感じたのか神妙な顔つきで見学する姿が印象的でした。

修学旅行の最後を締めくくる行き先は、熊本県のグリーンランドです。最初に5人そろって向かったのは、「ホラータワー」。いったん入場したものの怖くなり、すぐに引き返して退場してしまいました。そのあとは、2グループに分かれ、様々な乗り物に乗り、また途中でおやつを自分で購入して食べるなど、学びの緊張を解き放った表情で、友達と楽しく時間を過ごし、思い出のアルバムを増やしたようです。

解団式で、私が結団式の折に話した3つの大事にしてほしいことについての振り返りを、子ども一人一人にしてもらいました。できたこと、もうひとがんばりだったことがそれぞれにあったようです。

各地の歴史や文化にふれ、他校の子どもたちとも交流でき、また、集団を意識し自分たちで考えしっかり行動できた、大きな学びとなった2日間でした。



～手作業でがんばった田植え～

6月11日(火)、全校で田植えを行いました。この日植えた苗は、4～6年生が5月7日に蒔いた“もみ”が生長

したものです。そして、子どもたちのために、お米の先生である安東さんをはじめ、地域や保護者の方々がご指導に来てくださいました。

子どもたちは、まず、安東さんから「苗の束から2～3本を取って植えてください」と、植え方を教えてもらいます。

いよいよ田へ。恐る恐る片足ずつを入れる子どもたち。ぬるっとしたどろの感触を味わいつつ、すぐに慣れたようです。なかよし班毎に全校が一列に並んで立ちました。今回初めて経験する1年生の横には、困った時にすぐに助けられるよう6年生が立っています。

大人が、苗を植える位置が記されている畔から畔まである長いひもを引っ張っています。子どもたちはこの位置を確認しながら、手に持った苗を泥水の中に押し込んでいきます。植えたら一歩下がり、再び位置を確認して植えていきます。



子どもたちが着用している短めのズボンも、泥水につかったり泥が跳ね上がったりしてだんだんと汚れてきました。しかし、誰一人気にすることなく、田植えに集中しています。しばらくすると、ちょっと疲れてきたのか、あとどれくらい植えるのだろうと、残りの面積を6年生が確認します。まだ随分残っているようです。気を取り直しつつ作業を続けます。



機械なら短時間で終わる作業も、手作業となると何倍もの労力が必要となり、植え終わるまでに1時間半はかかりました。この日は晴天で気温も高くなり、大人でもきつさは隠せません。しかし、子どもたちは最後まで粘り強く取り組み、学校教育目標である“たくましい”姿を見せてくれ、大変立派なものでした。

実りの秋にどんなお米が収穫できるのか、今から大変楽しみです。

大田ふるさとづくり協議会から、子どもたちひとりひとりにお茶をいただきました。ありがとうございました。

